

ロータリー100年の森林生育観察及び除草作業

高野山ロータリークラブ（角濱正和会長・高梨晃瑞社会奉仕委員長）は、6月19日ロータリー100年の森林を訪れての移動例会を行い、会長に就任してから早くここを訪れたいと思っておりましたが、最後になってやっと実現することが出来た。県が高野山の森林組合に委託し、年に2回の下刈を任されています。これは年間60万円程かかるそうで、10年間はやって行けるそうです。私たちのクラブはロータリー100年の森林を任された訳ではありませんが、森の生育観察とせめて下層部分の除草だけでもと、ここで例会を行うことに致しました。

例会時間内には到底草刈作業は終わらないと早朝から会員が普段では見られない作業着姿で、軍手を履き、草刈機や鎌を持って、次々と集まってくれました。森林内には、インターアクトが創立30周年記念事業で建てたモニュメントがありますが、草で覆いつくされていましたが、流石にロータリアンです。見事に森林が蘇りました。

次年度村上ガバナーエレクトは地区の方針を「歴史に学び、変革と進歩を」として、明日に向かって前進すること、としております。今こそ、社会奉仕活動が求められる時はありません。そして、環境保全運動に協力をお願いしたいと社会奉仕委員会でも言われております。

好天に恵まれ、いい汗をかいた後で、草むらに腰を落としての弁当は格別の味がしたと会員の話でした。そして、亀岡会員からお預かりしました資料を読ませていただき、解散とした。

- 1、この森林は、「ロータリー100周年社会奉仕プロジェクト」として、2003年にスタートして現在も継続されている事業です。
- 2、この事業は（財）和歌山県緑化推進会との協働事業です。
- 3、この森林は、高野町・内子谷の国有人工伐採跡地3.1haを借り受けて、落葉広葉樹を植樹して作られています。
- 4、ヤマザクラ650本、ケヤキ200本、イロハモミジ（イロハカエデ）450本、コナラ400本、クリ574本、トチノキ50本、ヤマボウシ50本、エドヒガン50本、合計2,424本が植えられました。
- 5、今後の心配事として、大雨などによる植林傾斜面の崩壊、ニホンカモシカなどによる被害、心無い人による人災、年が経つにつれてロータリアンやその家族に「森林」の事が遠のき、忘れ去られるなど。（亀岡会員資料より）

2640地区のロータリアンの皆様のみならず、全国のロータリアンの皆様、高野山にお越しの時にはどうぞお気軽にお声を掛けてください。何時でも高野山ロータリークラブがご案内を差し上げます。